



## YDK

昨日の学級タイムで星陵祭の役割分担を決めていたときに、「YDK」という言葉が出て来た。今週は前期中間考査の結果を配布したし、それに基づく学級通信も書いたので、ダメ押しでもう一言いっておこう。

私は日比谷に来て13年目になるが、その間に「YDK」に出会ったことはない。これだけはハッキリ言っておきたい。日比谷ではYDKは、単に「勉強しないから出来ない生徒」である。

『羅生門』の下人は、「この「すれば」は、いつまでたっても結局「すれば」であった。」という状況におかれ、その後に来たるべきことを「積極的に肯定するだけの、勇気が出ずにいたのである」だったが、門の楼の上で老婆に「勇気」を発揮するヒントを与えられて、それを行動に移す。さて、君たちに勇気のヒントを与える老婆は誰なのだろう（笑）？

「やればできる子」は、日比谷では「すでにやっている」のである。YDKはいつまでたってもYDKのままである。その現実をキチンと認識すべきである。

\*

ここで誤解してほしくないのだが、「やったからできた」は、自己認識である。だって、順位をつければ1位から325位までがついてしまうのだから、誰かが必ず325位にならないければならない。だから、自分自身の中で、「やったから（前より）できた！」と納得できれば、それがたとえ325位であったとしてもよいのである。

日比谷では繰り返し個人面接を行うが、それはそういうことを確かめるためでもある。数字の上では成果が現れていないように見え

ても（みんな努力しているのだから、そう簡単に数字は向上しない）、面接の中で「がんばっている」ということが分かれば、先生方はその努力を見守っていくに違いない。いけないのは、自分をYDKだと自己認識して、いつかその時、つまり「やれば」の瞬間が訪れるだろうと期待することなのである。

\*

だから、前回の進路通信に書いたが、大切なことは結果に対する自己の意味づけである。「やったからできた」が一番いいが、「やっただけでできなかった」もあるだろう。その場合は、その原因を探ることだ。そして、不得意は誰にでもあることを認識しつつ、その不得意度をなるべく小さくする努力を継続することである。今の分野が苦手でも、少しは分かる分野だってあるに違いない。「少しは分かる」をきっかけにして、その科目と仲良くしようとするのが大切だ。

一方「やらなかったからできなかった」人もいるだろう。その人はただただ「やりなさい」である。日比谷は進学指導重点校だ。やらないなら日比谷にいる意味はない。

\*

「やって325位」の人と「やらなくて325位」の人では、全然違う。「やっても325位なんて悲惨じゃない…？」ではない。まったくその逆である。それは、3年後に明確な結果として表れる。「やって325位」の人には、必ず結果がついてくるのである。一方、「やらなくて325位」の人は、何の結果も手に入れることはできない……。

これが日比谷13年間の結論である。